

---

**維持透析患者とポリファーマシー**

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○江藤りか 増田直子 渡部さゆり 小嶺真耶 矢野未来 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

**【はじめに】**

ポリファーマシー(多剤服用)では6剤以上で有害事象の頻度が高くなる傾向があるとい報告があるが、透析患者では合併症も多く必要な投薬があり、一概にポリファーマシーと言えないケースも存在する。

**【目的】**

当院外来維持透析患者において、投薬数、薬効別の処方割合を調査する。

**【方法】**

2019年12月に投薬した処方箋からデータを抽出する。

対象患者は333名で平均年齢は67.7歳

**【結果】**

投薬数は1剤～22剤で中央値は10剤であった。また、処方割合は降圧剤78%、リン吸着薬77%であり、何れも複数の薬剤を併用する割合も高かった。また、ビタミンD 52%、循環器系薬剤47%と続いた。

**【考察】**

透析患者は様々な合併症を有しており、多剤併用も必要な場合があることが示唆された。病名との投薬数の関連も含めて報告する。